

三重県経済の現状と見通し < 2020年4月 >

1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	基調判断(方向等)	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準評価 (注2)
		詳細		
総括判断	景気の現状	<b>厳しい状況にある</b> 新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済活動の自粛により、雇用が減少しているほか、企業活動も下振れしており、厳しい状況にある。		
	当面の見通し	<b>極めて厳しい状況が続く見通し</b> 感染拡大の終息が見通せないなか、個人消費が停滞するほか、県内製造業の生産活動も抑制され、極めて厳しい状況が続く見通し。		
家計部門	個人消費	<b>おおむね横這いとなっている</b> 大型小売店販売額(全店ベース)は、2か月連続の前年比増加		
	住宅投資	<b>一進一退</b> 住宅着工戸数は、2か月連続の前年比増加		
	観光	<b>減少している</b> 県内施設延べ宿泊者数は、6か月連続の前年比減少		
	雇用・所得	<b>弱い動きがみられる</b> 有効求人倍率(季節調整値)は、7か月連続の前月比低下		
企業部門	企業活動	<b>減少している</b> 鉱工業生産指数は、12か月連続の前年比低下		
	企業倒産	<b>悪化しつつある</b> 倒産件数は、4か月連続の前年比増加		
	設備投資	<b>一服</b> 非居住用建築物着工床面積は、2か月連続の前年比増加		
海外部門	輸出	<b>弱い動きがみられる</b> 四日市港通関輸出額は、4か月連続の前年比減少		
公共部門	公共投資	<b>弱含み</b> 公共工事請負金額は、4か月振りの前年比増加		
その他	物価	<b>上昇</b> 津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、5か月連続の前年比上昇		

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、: 上方修正、: 据え置き、: 下方修正を示す。

(例えば、「回復」「減速」となれば下方修正、「回復」「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、  
:晴、|:晴~曇、:曇、|:曇~雨、:雨、を示す。

(注3)個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三十三総研 調査部 佐藤
	電話: 059-354-7102 Mail: 33ir@miebank.co.jp

2. 個別部門の動向: 家計部門

個人消費	おおむね横這いとなっている	基調判断の前月との比較	↘
		水準評価	

**現状**

個人消費は、おおむね横這いとなっている。

個人消費の動向を支出者側からみると、2月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比 + 11.3%と4か月連続の増加(図表1)。なお、勤労者世帯可処分所得(津市)は同 + 35.7%と6か月連続の増加(前掲図表1)。

個人消費の動向を販売者側からみると、2月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースでは前年比 + 7.9%、既存店ベースでは同 + 5.5%とそれぞれ2か月連続、5か月振りの増加。全店ベースを商品別にみると、衣料品(同 7.5%)が5か月連続の減少となった一方、飲食料品(同 + 9.3%)や家庭用品(同 + 10.6%)がそれぞれ3か月連続、5か月振りの増加。

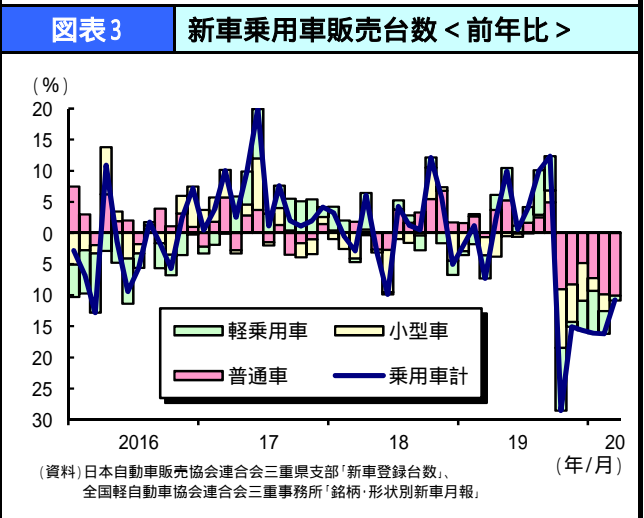
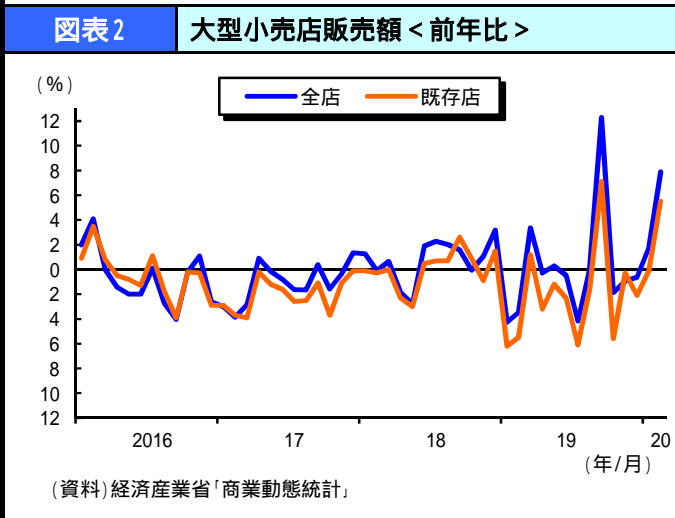
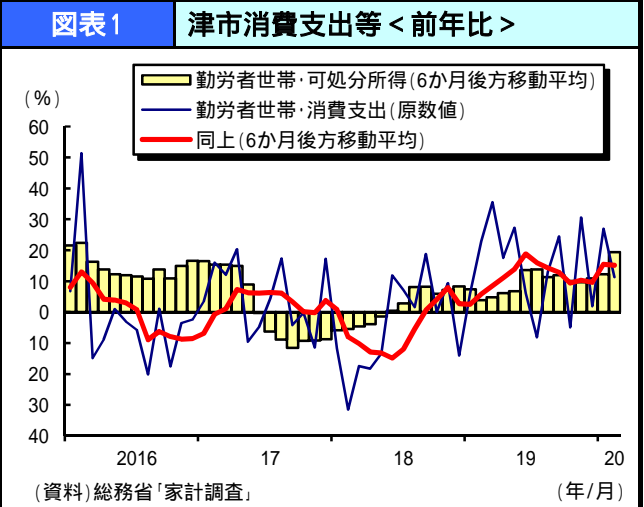
3月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、9,281台(前年比 - 10.8%)となり、前年比で6か月連続の減少(図表3)。車種別にみると、小型車(同 + 0.4%)が増加した一方、消費増税による影響や、新型肺炎の感染拡大に伴う来客数の伸び悩みを受け、普通車(同 - 26.7%)、軽乗用車(同 - 2.2%)がそれぞれ6か月連続の減少。

**見通し**

東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、3月の家計部門の水準は16.8と前月(24.5)から大幅悪化。ウォッチャーの声では、「3月以降急激に売上が悪化しており、政府からの要請により拍車がかかった」といった声や、「売上増をけん引していたインバウンド客が皆無となり、来客数が激減している」といった声が聞かれた。また、2~3か月先の景気の先行きに対する判断DIについても、新型肺炎の感染拡大による先行き不透明感から、17.7と前月(26.0)から大幅に悪化。

先行き個人消費は、新型肺炎の感染拡大による、イベント中止や外出自粛の影響を受け、サービス消費を中心に大幅な下振れは避けられない見通し。また、4月に入り緊急事態宣言が発令されたことにより、商業施設や飲食店などで時短営業や休業が広がっており、パートタイマーなどを中心に労働時間短縮による所得減少が見込まれ、消費は一段と厳しさが増す可能性も。

<b>2月 勤労者世帯・消費支出</b>			
386千円	前年比 + 11.3%	(4か月連続の増加)	
<b>2月 大型小売店販売額</b>			
全店	前年比 + 7.9%	(2か月連続の増加)	
既存店	前年比 + 5.5%	(5か月振りの増加)	
<b>3月 新車乗用車販売台数&lt;含む軽&gt;</b>			
9,281台	前年比 - 10.8%	(6か月連続の減少)	
・普通車	2,876台		
・小型車	前年比 + 0.4%	(6か月振りの増加)	
・軽乗用車	3,647台		
	前年比 - 2.2%	(6か月連続の減少)	



<b>住宅投資</b>	<b>一進一退</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒																								
		<b>水準評価</b>																									
<p><b>現状</b> 住宅投資は、一進一退。 2月の住宅着工戸数は、904戸（前年比 + 39.7%）となり、前年比で2か月連続の増加（図表4）。利用目的別にみると、持家（同 - 4.1%）が5か月連続の減少となった一方、貸家（同 + 127.8%）が大幅に増加したほか、17か月振りに分譲マンションの着工があり、分譲住宅（同 + 94.2%）も増加。 市町別では、津市が254戸（同 + 247.9%）、桑名市が57戸（同 + 103.6%）とそれぞれ増加。</p> <p><b>見通し</b> 持家は消費増税前の駆け込み需要の反動減が続いている一方、貸家については金融機関による融資条件の厳格化が重石となるものの交通インフラの充実を受け工業団地の造成が予定される鈴鹿市などでは住宅需要が底堅く推移するとみられ、一進一退で推移する見通し。</p>																											
<p><b>2月 住宅着工戸数</b></p> <table border="1"> <tr> <td>904戸</td> <td>前年比</td> <td>+ 39.7%</td> <td>（2か月連続の増加）</td> </tr> <tr> <td>・持家</td> <td>393戸</td> <td>前年比</td> <td>4.1%</td> <td>（5か月連続の減少）</td> </tr> <tr> <td>・貸家</td> <td>303戸</td> <td>前年比</td> <td>+ 127.8%</td> <td>（2か月連続の増加）</td> </tr> <tr> <td>・給与住宅</td> <td>8戸</td> <td>前年比</td> <td>+ 700.0%</td> <td>（2か月振りの増加）</td> </tr> <tr> <td>・分譲住宅</td> <td>200戸</td> <td>前年比</td> <td>+ 94.2%</td> <td>（3か月振りの増加）</td> </tr> </table>		904戸	前年比	+ 39.7%	（2か月連続の増加）	・持家	393戸	前年比	4.1%	（5か月連続の減少）	・貸家	303戸	前年比	+ 127.8%	（2か月連続の増加）	・給与住宅	8戸	前年比	+ 700.0%	（2か月振りの増加）	・分譲住宅	200戸	前年比	+ 94.2%	（3か月振りの増加）	<p><b>図表4</b> 新設住宅着工戸数 &lt; 前年比 &gt;</p>	
904戸	前年比	+ 39.7%	（2か月連続の増加）																								
・持家	393戸	前年比	4.1%	（5か月連続の減少）																							
・貸家	303戸	前年比	+ 127.8%	（2か月連続の増加）																							
・給与住宅	8戸	前年比	+ 700.0%	（2か月振りの増加）																							
・分譲住宅	200戸	前年比	+ 94.2%	（3か月振りの増加）																							
		<p>（資料）国土交通省「建築着工統計」</p>																									

<b>観光</b>	<b>減少している</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	↘									
		<b>水準評価</b>										
<p><b>現状</b> 観光は、減少している。 1月の三重県内施設延べ宿泊者数は、561千人泊（前年比 - 6.7%）となり、前年比で6か月連続の減少（図表5）。外国人宿泊者数については26千人泊（同 + 45.3%）となり、前年比で2か月振りの増加。</p> <p><b>見通し</b> 伊勢市長は、4月の伊勢神宮参拝者が12日時点で前年から8割以上減少していることを発表するなど、新型コロナウイルスの流行が県内観光地にも深刻な影響を与えている状況。また、県は独自措置として、県内のホテル・旅館を対象に、大型連休中の宿泊予約者へ予約延期を依頼することを求めている。観光客数の大幅な減少は避けられない見通し。</p>												
<p><b>1月 県内施設延べ宿泊者数</b></p> <table border="1"> <tr> <td>561千人泊</td> <td>前年比</td> <td>- 6.7%</td> <td>（6か月連続の減少）</td> </tr> <tr> <td>・外国人</td> <td>26千人泊</td> <td>前年比</td> <td>+ 45.3%</td> <td>（2か月振りの増加）</td> </tr> </table>		561千人泊	前年比	- 6.7%	（6か月連続の減少）	・外国人	26千人泊	前年比	+ 45.3%	（2か月振りの増加）	<p><b>図表5</b> 三重県内施設延べ宿泊者数</p>	
561千人泊	前年比	- 6.7%	（6か月連続の減少）									
・外国人	26千人泊	前年比	+ 45.3%	（2か月振りの増加）								
		<p>（資料）国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」</p>										

雇用・所得	弱い動きがみられる	基調判断の前月との比較	↘
		水準評価	

**現状**

雇用・所得情勢は、弱い動きがみられる。

2月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.39倍(前月比 0.05ポイント)と7か月連続で低下し、全国平均(1.45倍)とのかい離幅が前月から拡大。新規求人倍率(季節調整値)は、2.09倍(同+0.08ポイント)と4か月振りの上昇(図表6)。

2月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比 17.6%と7か月連続の減少(図表7)。業種別にみると、製造業(同 15.8%)では、食料品(同+21.1%)、化学工業(同+63.4%)は増加したものの、金属製品(同 33.5%)や生産用機械(同 38.7%)などが減少。非製造業では、サービス業(同 26.9%)、運輸、郵便業(同 35.7%)、建設業(同 13.1%)などを中心に多くの業種が減少。

1月の所定外労働時間指数は、前年比 4.3%と4か月連続の低下。名目賃金指数(同+1.8%)は2か月振りの上昇で、うち、きまって支給する給与(同+0.5%)は13か月連続の上昇(図表8)。

**見通し**

先行きの雇用をみると、新型肺炎の感染拡大の終息が見通せないなか、緊急事態宣言発令に伴う経済活動の自粛や、企業業績の悪化により製造業、非製造業ともに弱い動きが続く見通し。

三十三総研が県内中小企業を対象に実施した「第48回経営者アンケート」をみると、2020年4月～9月に雇用に「増やす」と回答した企業の割合は30.8%と前回見通し(33.2%)を下回っているほか、「減らす」と回答した企業の割合は4.3%と前回見通し(2.3%)を上回っていることから、求人数の落ち込みが当面続くと予想。

所得については、商業施設や飲食店などで時短営業や休業が広がるなか、出勤停止や労働時間減少の影響で、一時的な下振れは避けられない見通し。

**2月 求人倍率<季節調整値>**

有効求人倍率 1.39倍  
前月比 0.05ポイント (7か月連続の低下)  
新規求人倍率 2.09倍  
前月比 +0.08ポイント (4か月振りの上昇)

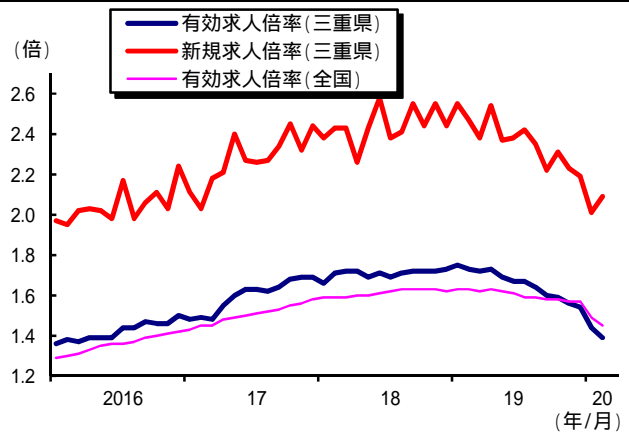
**2月 新規求人数<学卒・パートタイム除く>**

前年比 17.6% (7か月連続の減少)

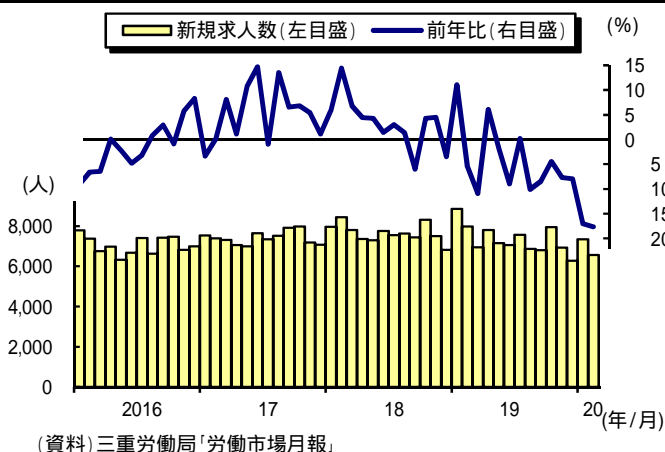
**1月 労働時間・賃金指数<調査産業計>**

所定外労働時間指数  
前年比 4.3% (4か月連続の低下)  
名目賃金指数  
前年比 +1.8% (2か月振りの上昇)  
きまって支給する給与  
前年比 +0.5% (13か月連続の上昇)

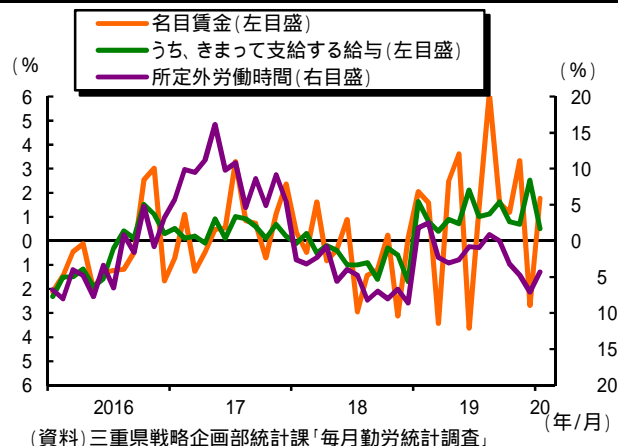
**図表6 有効・新規求人倍率<季節調整値>**



**図表7 新規求人数<学卒・パート除く>**



**図表8 労働時間・賃金指数<調査産業計、前年比>**



### 3. 個別部門の動向: 企業部門

<b>企業活動</b>	<b>減少している</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	<b>水準評価</b>
		<b>水増し</b>	<b>+</b>

**現状**  
 企業の生産活動は、減少している。  
 2月の鉱工業生産指数は、前年比 4.8%と12か月連続の低下(図表9)。業種別にみると、電子部品・デバイス(同+52.8%)が5か月連続の上昇となったものの、輸送機械(同 31.3%)が5か月連続の大幅な低下となったほか、化学(同 7.9%)が10か月連続、汎用・生産用・業務用機械(同 18.9%)が7か月連続で低下。

**見通し**  
 先行き生産は、減少が続くと見込まれる。  
 電子部品・デバイスについては新型肺炎感染拡大の影響が懸念される反面、20年半ば以降にデータセンター投資の回復や、5G通信機器関連需要の一段の拡大が予想され、メモリ需要は持ち直しが期待できる状況。  
 輸送機械は、ホンダ鈴鹿製作所で生産する車種の一部部品が、調達困難となったことに伴い、生産ラインの停止を拡大すると報道されるなど、サプライチェーン寸断による影響などを受け、落ち込みが続くと予想。  
 汎用・生産用・業務用機械は、新型肺炎の影響による中国経済の停滞を受けて、一段と弱い動きとなる見通し。

2月 鉱工業生産指数 < 2015年=100 >	
100.2	前年比 4.8% (12か月連続の低下)
・汎用・生産用・業務用機械工業	前年比 18.9% (7か月連続の低下)
・電子部品・デバイス工業	前年比 +52.8% (5か月連続の上昇)
・輸送機械工業	前年比 31.3% (5か月連続の低下)
・化学工業	前年比 7.9% (10か月連続の低下)

**図表9 鉱工業生産指数 < 前年比 >**

(資料) 三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」

<b>企業倒産</b>	<b>悪化しつつある</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	<b>水準評価</b>
		<b>水増し</b>	<b>+</b>

**現状**  
 企業倒産は、悪化しつつある。  
 3月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は4件(前年比+1件)と前年比で4か月連続の増加。一方、負債総額は241百万円(同 80百万円)と、4か月振りの減少(図表10)。

**見通し**  
 4月に入り、県内で新型肺炎の感染拡大による影響を直接受けた倒産が発生したほか、宿泊業・旅行業をはじめとした観光関連産業や、インパウンド需要への依存度が高い一部小売業、サプライチェーンの寸断などを背景としたメーカーへの悪影響が表面化してきており、中小零細企業を中心に増勢が加速することが懸念される。

3月 企業倒産	
倒産件数 4件	前年比 +1件 (4か月連続の増加)
負債総額 241百万円	前年比 80百万円 (4か月振りの減少)

**図表10 倒産件数・負債総額 < 負債総額1,000万円以上 >**

(資料) ㈱東京商工リサーチ津支店

設備投資	一服	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p><b>現状</b> 企業の設備投資は、一服。 2月の非居住用建築物着工床面積は、37千㎡(前年比 + 48.3%)と前年比で2か月連続の増加。一方、3月の貨物車登録台数(除く軽)は、648台(同 8.6%)と前年比で6か月連続の減少(図表11)。</p> <p><b>見通し</b> 道路交通網の整備が進み、工場や倉庫などの立地の優位性が一層高まっているなか県内外企業の生産設備の新增設が加速することが期待できるものの、新型肺炎の感染拡大を受けて景気の先行き懸念が強まっていることから、当面弱含んで推移する見通し。 三十三総研が県内中小企業を対象に実施した「第48回経営者アンケート」をみると、2020年4月～9月に設備投資を「実施する」と回答した企業の割合は28.1%と、前回見通し(34.7%)対比で6.6ポイント減少しており、県内企業の投資マインドは冷え込んでいる状況。</p>			
<p><b>2月 非居住用建築物着工床面積</b> 37千㎡ 前年比 + 48.3% (2か月連続の増加)</p> <p><b>3月 貨物車登録台数</b> 648台 前年比 8.6% (6か月連続の減少)</p>		<p><b>図表11 設備投資関連指標 &lt; 前年比 &gt;</b></p> <p>(資料)国土交通省「建築着工統計」、日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」、三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>	

#### 4. 個別部門の動向: 海外部門

輸出	弱い動きがみられる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p><b>現状</b> 輸出は、弱い動きがみられる。 3月の四日市港通関輸出額は、732億円(前年比 3.4%)となり、前年比で4か月連続の減少(図表12)。品目別にみると、中国での需要が復調している乗用車(同 + 347.9%)や科学光学機器(同 + 110.3%)が増加したものの、原油価格の急落を受け石油製品(同 13.6%)や有機化合物(同 41.2%)などが減少。</p> <p><b>見通し</b> 自動車や自動車の部分品については、中国向けなどで一部需要が改善する兆しがみられるものの、新型肺炎の流行に伴う原油価格の大幅な下落により、石油製品や化学製品が下押しに作用し、弱い動きが続くことが予想される。</p>			
<p><b>3月 四日市港通関輸出額</b> 732億円 前年比 3.4% (4か月連続の減少)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石油製品 127億円 前年比 13.6% (4か月連続の減少)</li> <li>・有機化合物 28億円 前年比 41.2% (4か月振りの減少)</li> <li>・電気回路等の機器 62億円 前年比 11.9% (4か月連続の減少)</li> <li>・乗用車 78億円 前年比 + 347.9% (4か月振りの増加)</li> <li>・自動車の部分品 64億円 前年比 + 15.4% (5か月連続の増加)</li> <li>・科学光学機器 17億円 前年比 + 110.3% (7か月振りの増加)</li> </ul>		<p><b>図表12 四日市港通関輸出額 &lt; 前年比 &gt;</b></p> <p>(資料)名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p>	

5. 個別部門の動向: 公共部門

公共投資	弱含み	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p><b>現状</b> 公共投資は、弱含み。 3月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比 6.9%と4か月連続の減少。一方、請負金額は同 +64.3%と4か月振りの増加。(図表13)。中部地方整備局において「北勢B P坂部トンネル」の大型工事、中日本高速道路において「桑名東インターチェンジ他IC料金所改修」等の大型工事があった影響によるもの。</p> <p><b>見通し</b> 県は3月に「東海環状自動車道」の北勢IC(三重県いなべ市)から養老IC(岐阜県養老町)間が全線開通する見通しとなったと発表するなど、引き続き道路関連の大型工事が出てくるとみられるほか、国が進める国土強靱化対策のための防災関連の工事も引き続き行われ、緩やかに持ち直す見通し。</p>			
<p><b>3月 公共投資</b> 公共工事請負件数 215件 前年比 6.9% (4か月連続の減少) 公共工事請負金額 173億円 前年比 +64.3% (4か月振りの増加)</p>		<p><b>図表13 公共工事請負金額</b></p> <p>(資料) 東日本建設業保証(株)三重支店 (年/月)</p>	

6. 個別部門の動向: その他

物価	上昇	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p><b>現状</b> 物価は、上昇。 2月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比 +0.4%と上昇(図表14)。幼児教育・保育の無償化を受けた教育(同 6.7%)が下落したものの、教養娯楽(同 +1.6%)、交通・通信(同 +2.1%)、生鮮食品を除く食料(同 +0.8%)など幅広い費目で上昇。</p> <p><b>見通し</b> 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う各種イベント、会合の中止、外出の手控えなどから消費が落ち込み、物価の下落し圧力が強まる可能性が高い。また、足元の需要減少による原油価格暴落を受けてエネルギー価格の下落幅は拡大することが見込まれ、終息が見通せない状況が続けばマイナスで推移する可能性も。</p>			
<p><b>2月 消費者物価指数&lt;生鮮食品を除く、2015年=100&gt;</b> 101.5 前年比 +0.4% (4か月連続の上昇) ・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +0.8% (5か月連続の上昇) ・住居 前年比 +0.2% (3か月連続の上昇) ・光熱・水道 前年比 +1.2% (4か月連続の上昇) ・交通・通信 前年比 +2.1% (3か月連続の上昇) ・教養娯楽 前年比 +1.6% (21か月連続の上昇)</p>		<p><b>図表14 津市消費者物価指数&lt;前年比&gt;</b></p> <p>(資料) 総務省「消費者物価指数」 (年/月)</p>	

県内経済



トピックス

(2020年3月)

## 1. ご当地ナンバー「四日市」「伊勢志摩」5月11日から交付

3月10日、「四日市」「伊勢志摩」を含む17地域の新たな地域名表示「ご当地ナンバー」の交付開始日が、5月11日に決定した。

「ご当地ナンバー」は図柄なしのほか、地域独自の図柄入り白黒とフルカラーの3種から選ぶことができる。図柄入りナンバーのデザインは、「四日市」ナンバーでは、四日市市公式マスコットキャラクター「こにゅうどうくん」と工場夜景が、「伊勢志摩」ナンバーでは、志摩半島の地図や特産品の真珠、伊勢神宮の鳥居などがあしらわれている。

事前申込みは4月13日より開始されており、図柄入りプレートの普通車の交付料金は、両地域ともに白黒版で7,500円、カラー版はさらに1,000円以上の寄付金が必要となる。寄付金は地域の交通改善や観光振興に関する取組に活用される。

## 2. 東海環状自動車道、2026年度に全線開通見通し

3月16日、三重県は東海三県をつなぐ東海環状自動車について、いなべ市北勢町の北勢ICから岐阜県養老町の養老IC間(約18km)が2026年度中にも完成し、全線開通する見通しとなったと発表した。

本道路は三重、愛知、岐阜の物流面でのアクセス向上などを目的として1996年度に着工したものの、三重、岐阜県境間は長年にわたって財源確保の見通しが立たず、開通時期が示されていなかった。来年度に予定する高速道路料金の見直しによる収入増を見込み、国交省が開通時期を示したものの。

三重、岐阜両県が高速道路でつながることで、物流面でのアクセス向上のほか、四日市港の利用促進や観光の活性化などが期待される。

## 3. シャープ三重工場でマスク生産開始

3月24日、シャープ(株)(大阪府堺市)は三重県多気町の液晶パネル工場でマスクの生産を開始した。新型コロナウイルス感染拡大が続くことによるマスク不足を受けた政府の緊急要請に応じたもので、異業種からの参入としては初めてとなった。

生産するのは不織布マスクで、同工場のクリーンルームを活用して1日15万枚を生産、最終的には最大で1日50万枚まで生産量の拡大を目指している。

3月下旬には政府調達向けの出荷を開始しており、4月27日より同社ECサイト「SHARP COCORO LIFE」にて個人向け一般販売(抽選方式)を開始した。

## 4. 国内最大級のトヨタディーラー「TOYOTOWN」、三重県に2店舗開業

3月13日、三重トヨタ自動車(株)(三重県津市)は、新店舗「TOYOTOWN」を5月8日から三重県四日市市に、また6月下旬から三重県名張市に開業することを発表した。

店舗の敷地面積は四日市店が約4,840㎡、名張店が7,670㎡とトヨタディーラーとしては国内最大級となる。両店舗ともにショールーム内には約20台の新車を展示する。トヨタ自動車の販売店では5月から系列店ごとの専売車種が廃止となり、新店舗ではさまざまなタイプの車を見比べることができる。

同社は、本店舗の開業をきっかけに、地域の顧客との新しいコミュニケーション活動を開始する。第一弾では、愛知県出身のアーティスト、ITOKiN氏とコラボレーションし、イベントプロモーションなどを実施。

以上



## 景 気 指 標

三十三総研  
2020/4/30

### < 三重県 >

(注) ( )内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2018年	2019年	2019年			2020年 1~3月	2019年		2020年		
			4~6月	7~9月	10~12月		11月	12月	1月	2月	3月
大型小売店販売額(全店)	( 0.8)	( 0.1)	( 0.2)	( 2.5)	( 1.1)		( 0.9)	( 0.6)	( 1.8)	( 7.9)	
同(既存店)	( 0.1)	( 2.2)	( 2.3)	( 0.4)	( 2.6)		( 0.3)	( 2.1)	( 0.1)	( 5.5)	
新車販売台数(軽を除く、台)	60,175	58,613	13,282	15,884	11,175	15,104	4,010	3,751	3,920	4,732	6,452
	( 0.5)	( 2.6)	( 2.0)	( 9.2)	( 22.8)	( 17.3)	( 21.7)	( 18.0)	( 16.8)	( 21.0)	( 14.8)
うち乗用車販売台数(台)	53,322	51,181	11,646	13,685	9,810	13,291	3,519	3,298	3,479	4,178	5,634
	( 0.1)	( 4.0)	( 2.0)	( 6.3)	( 23.0)	( 17.1)	( 22.0)	( 16.8)	( 15.8)	( 20.2)	( 15.5)
新車軽自動車販売台数(台)	41,157	41,008	9,884	10,828	7,992	11,162	3,127	2,405	3,071	3,587	4,504
	( 2.8)	( 0.4)	( 8.1)	( 10.8)	( 16.2)	( 9.3)	( 7.0)	( 13.2)	( 16.2)	( 10.4)	( 2.8)
うち乗用車販売台数(台)	32,501	32,393	7,745	8,672	6,148	8,955	2,378	1,862	2,412	2,896	3,647
	( 1.5)	( 0.3)	( 7.3)	( 13.2)	( 14.4)	( 8.9)	( 2.2)	( 13.5)	( 16.6)	( 9.7)	( 2.2)
新設住宅着工戸数(戸)	10,616	10,162	2,770	2,598	2,643		936	900	711	904	
	( 2.6)	( 4.3)	( 2.7)	( 15.8)	( 1.4)		( 11.2)	( 10.3)	( 16.2)	( 39.7)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	8,901	8,796	2,166	2,509	2,086		731	628	561		
	( 7.0)	( 1.2)	( 11.5)	( 5.0)	( 8.0)		( 6.1)	( 14.4)	( 6.7)		
有効求人倍率(季調済)	1.71	1.66	1.70	1.64	1.56		1.56	1.54	1.44	1.39	
新規求人倍率(季調済)	2.43	2.40	2.43	2.33	2.25		2.23	2.19	2.01	2.09	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	91,910	88,206	22,032	21,239	21,155		6,928	6,281	7,347	6,572	
	( 3.4)	( 4.0)	( 1.7)	( 6.1)	( 6.6)		( 7.7)	( 7.9)	( 17.0)	( 17.6)	
名目賃金指数(調査産業計)	( 0.6)	( 0.6)	( 0.1)	( 2.8)	( 0.3)		( 3.3)	( 2.7)	( 1.8)		
実質賃金指数(同)	( 1.8)	( 0.4)	( 0.6)	( 3.1)	( 0.4)		( 3.1)	( 3.2)	( 1.4)		
所定外労働時間(同)	( 5.2)	( 1.7)	( 2.2)	( 0.0)	( 5.0)		( 4.7)	( 7.1)	( 4.3)		
常用雇用指数(同)	( 1.0)	( 0.1)	( 0.4)	( 0.1)	( 0.4)		( 0.2)	( 1.2)	( 1.1)		
鉱工業生産指数	( 3.6)	( 4.1)	( 2.3)	( 5.7)	( 9.8)		( 12.9)	( 8.9)	( 8.6)	( 4.8)	
	-	-	< 1.8>	< 4.0>	< 0.4>		< 0.1>	< 1.8>	< 1.0>	< 0.9>	
生産者製品在庫指数	( 2.5)	( 3.2)	( 1.7)	( 4.0)	( 6.1)		( 9.5)	( 5.0)	( 11.2)	( 12.2)	
	-	-	< 0.8>	< 4.0>	< 0.6>		< 4.9>	< 4.6>	< 6.4>	< 0.5>	
企業倒産件数(件)	67	68	21	12	23	24	6	8	11	9	4
(前年同期(月)比)(件)	( 33)	( 1)	( 5)	( 5)	( 1)	( 12)	( 3)	( 3)	( 7)	( 4)	( 1)
非居住用建築物着工床面積(千㎡)	925	622	169	129	159		57	52	52	37	
	( 27.9)	( 32.8)	( 29.9)	( 44.6)	( 44.0)		( 54.2)	( 9.2)	( 7.7)	( 48.3)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	934,412	74,975	198,697	163,945	200,116	187,537	64,053	80,817	74,839	65,496	47,202
輸出(百万円)	858,926	907,716	215,361	235,031	218,383	210,096	70,466	72,330	65,059	62,314	82,723
	( 6.8)	( 5.7)	( 3.6)	( 5.8)	( 1.4)	( 12.1)	( 5.6)	( 12.0)	( 17.0)	( 19.1)	( 1.0)
四日市港 輸出(百万円)	836,407	836,047	201,636	197,888	213,201	195,476	70,382	72,323	59,949	62,300	73,227
	( 4.2)	( 0.0)	( 0.7)	( 7.7)	( 3.6)	( 12.5)	( 5.6)	( 11.9)	( 23.3)	( 10.2)	( 3.4)
輸入(百万円)	1,793,338	1,657,470	414,057	398,976	418,499	397,633	134,519	153,147	139,898	127,810	129,925
	( 25.7)	( 7.6)	( 0.1)	( 15.7)	( 12.5)	( 6.6)	( 22.4)	( 2.8)	( 6.3)	( 9.9)	( 3.6)
公共工事請負金額(億円)	2,170	1,793	516	585	362	312	92	82	81	59	173
	( 2.8)	( 17.4)	( 40.5)	( 5.3)	( 5.0)	( 5.2)	( 3.0)	( 33.7)	( 12.4)	( 55.9)	( 64.3)
津市消費者物価指数	( 1.2)	( 0.2)	( 0.7)	( 0.3)	( 0.2)		( 0.2)	( 0.6)	( 0.4)	( 0.2)	
同(除く生鮮)	( 0.9)	( 0.4)	( 0.8)	( 0.0)	( 0.3)		( 0.3)	( 0.6)	( 0.6)	( 0.4)	

### < 東海3県(三重・愛知・岐阜) >

	2018年	2019年	2019年			2020年 1~3月	2019年		2020年		
			4~6月	7~9月	10~12月		11月	12月	1月	2月	3月
大型小売店販売額(全店)	( 1.2)	( 1.1)	( 1.6)	( 2.3)	( 2.6)		( 0.4)	( 2.2)	( 0.1)	( 3.4)	
同(既存店)	( 0.4)	( 1.1)	( 0.8)	( 1.6)	( 3.0)		( 0.5)	( 2.6)	( 0.4)	( 2.6)	
新設住宅着工戸数(戸)	88,848	88,566	23,345	21,933	22,412		8,220	6,828	6,193	5,767	
	( 4.1)	( 0.3)	( 1.5)	( 8.6)	( 3.2)		( 6.0)	( 11.2)	( 3.4)	( 16.5)	
有効求人倍率(季調済)	1.92	1.90	1.94	1.88	1.82		1.82	1.80	1.67	1.56	
新規求人倍率(季調済)	2.88	2.90	2.96	2.82	2.76		2.76	2.69	2.31	2.39	
鉱工業生産指数	( 1.0)	( 2.0)	( 0.9)	( 0.6)	( 6.4)		( 7.6)	( 4.2)	( 4.3)	( 7.1)	
	-	-	< 2.7>	< 2.6>	< 7.2>		< 2.2>	< 1.6>	< 3.4>	< 0.8>	
企業倒産件数(件)	833	762	184	201	205	201	62	66	81	52	68
(前年同期(月)比)(件)	( 66)	( 71)	( 31)	( 1)	( 6)	( 29)	( 9)	( 9)	( 17)	( 3)	( 15)
域内外国貿易 純輸出(億円)	79,647	79,929	20,276	19,419	19,537	18,776	6,215	5,942	4,237	7,875	6,664
輸出(億円)	172,027	168,651	42,561	41,525	41,239	38,872	13,487	13,418	11,608	13,566	13,698
	( 6.3)	( 2.0)	( 0.5)	( 3.3)	( 7.3)	( 10.3)	( 6.9)	( 10.4)	( 5.9)	( 9.1)	( 14.8)
輸入(億円)	92,379	88,722	22,285	22,105	21,702	20,096	7,273	7,476	7,371	5,691	7,034
	( 13.1)	( 4.0)	( 3.3)	( 7.7)	( 12.5)	( 11.2)	( 12.6)	( 6.4)	( 4.6)	( 20.0)	( 9.7)

各指標における直近の数値